

## 第 21 回移動支援分科会開催報告

21.7.3.

分科会主査 八木英樹

開催日時	7月1日(木) 9:00~10:30(Zoom)
参加者	日本自動車研究所代表理事(所長) 鎌田先生 東京大学・高齢社会総合研究機構(IOG): 大方先生、似内先生、他1名 鎌倉市・都市計画課) 2名、西鎌倉地区・次世代電動カート実行委員会: 1名、 町内会: 6名
講演資料	グリーンスローモビリティ導入に向けて(鎌田先生作成)

### 議題 1. グリーンスローモビリティ導入に向けて (鎌田先生ご講演と質疑応答の要旨)

#### 1) グリーンスローモビリティ (通称グリスロ) とは

「①時速20km未満」で公道走行可「②電動車を活用」した「③小さな移動サービス」  
ゴルフカート型(ヤマハ発動機製4人乗り、7人乗り)、eCOM(ベンチャ製7人乗り、10人乗り)  
ヤマハ7人乗りで車両価格3百万円、環境省が半額補助

#### 2) 国内におけるグリスロの実証実験例の紹介 (全国98か所で実証実験)

公道運転への取り組み事例 ⇒ 域内近距離交通網への第1歩

#### 3) 実証実験を通じて確認されたグリスロの長所と短所

- 時速 20km未満 ⇒ 道路運送車両法の保安基準緩和。交通流を乱す恐れがあり、公道走行に限界。
- 高レベルの衝突安全基準免除、シートベルト不要。(走行環境の設定には注意が必要)
- 電動車両であることの利点と欠点: 排ガスゼロ、充電後の航続距離30km。
- ゴルフカート型は側方むきだしのため、風を感じて心地よい。(夏暑くて冬寒い)
- 速度と形状により、歩行者との親和性

#### 4) 導入の方法

- 緑ナンバーで交通事業として実施 ⇒ タクシー事業者等への委託費用がかかり、採算性が課題。
- 白ナンバーで自家用有償運送の資格を得て実施 (交通空白地あるいは福祉有償)  
地域公共交通会議等で協議し、タクシー事業者などの合意が必要、ハードルが高い。
- 白ナンバーで許可登録不要の無償輸送で実施 (松戸市の事例)  
ガソリン代(電気代)実費しか受け取れないが、容易に実施可能。  
車両を自治体が用意し、地域に貸与して、自治会等で運用。

#### 5) 私たちの事業化構想に対する教訓

- ①白ナンバーで許可登録不要の無償輸送で具体化。鎌倉市の関わり方、運営主体の構成、要検討。  
事業計画(需要予測、収支見通し、町内会予算での位置付け)
- ②MaaSを始め先進技術は、開発費、更新費用が重い。オンデマンドは時間管理と運転手の負担が大きい。  
所定ルートの定時走行方式が現実的。交通流を考え、公道走行は可能な限り避ける/短縮する。
- ③最寄りの路線バス停への乗り継ぎ場所(屋内、WC、ベンチ)の確保が必要。
- ④運転手の講習会に、町内のまだお元気な高齢者の参加呼び掛けが大切。

以上